

琉球大学学術リポジトリ

写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (11)

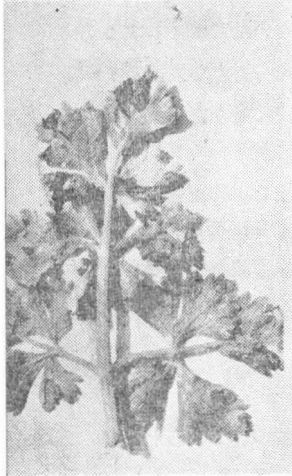
メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20369

琉球の農作物主要病害虫

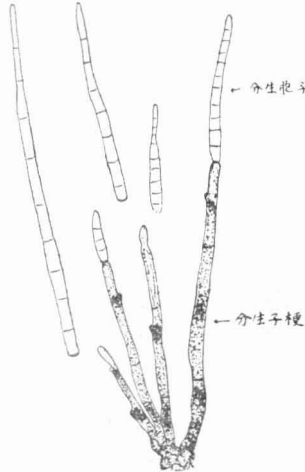
(11)

病 害

セルリーの黒斑点病被害葉



セルリーの黒斑点病菌



セルリーの黒はん病(はん点病)

宿 主: セルリー、 ミツバ

発 生: 琉球では12月から4月にかけてみられ、特に発生がひどい。

病 徴: 葉や茎をおかし、葉ではやや円形、黄緑色、水浸状の斑点ができ、ついでかつ色、暗かつ色になり、周縁は黄色でややもりあがる。高温多湿のときには病斑に白いカビ(分生孢子)ができる。

病 菌: 分生子 梗はかつ色、長さ40-60ミクロン、巾4-5ミクロン、基部の近くに1-2個の隔膜がある。分生孢子は無色またはうすみどり、糸状で3-12個の隔膜がある。長さ50-80ミクロンまたは280ミクロンに及ぶ。巾4-5ミクロン。

防 除

- △ 被害植物を除去焼却する。
- △ 種子は1000倍のウスプルン液に30分間つけるか、あるいは48°Cの湯に30分間つけて消毒する。
- △ ダイセン37グラムを水18リットルにとかして散布する。

サツマイモの黒アザ病

宿 主: サツマイモ

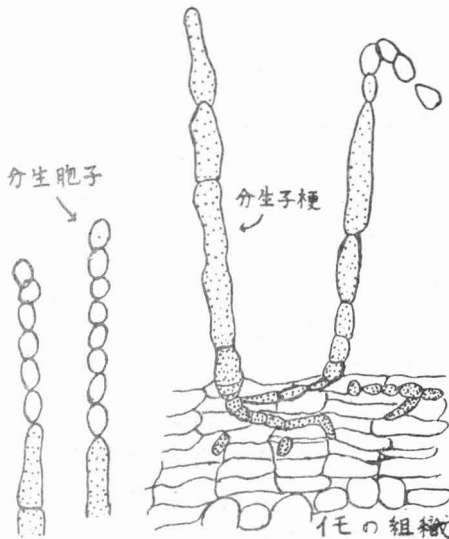
発 生: 夏から秋、冬にかけて発生し、収穫期になっていちじるしい。特に粘質土じょうに多い。

病 徴: 土中の茎及びイモの皮の部分にだけ発生し、決して深くはすすまない。

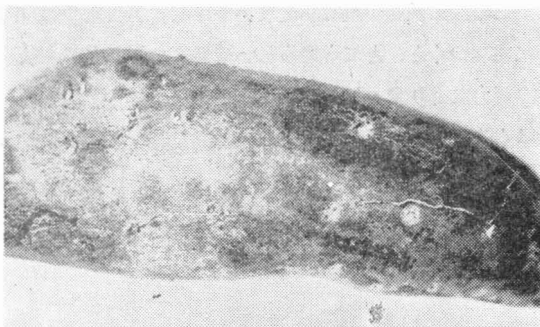
はじめ表面に淡いかつ色の小さな病斑ができ、これは大きくなると黒色となり、互いにむすびついて不規則形の大きな病斑となる。皮はしわができ、亀裂ができるようになる。

病 菌: 分生子梗は長さ40-175ミクロン、多くの隔膜

サツマイモの黒アザ病菌(遠藤)



サツマイモの黒アザ病被害イモ



がある。分生胞子は無色単胞、だ円形で、長さ12-20ミクロン、巾4-7ミクロン。

防 除

- △ 種いもは必ず無病のものを選り、苗床に伏せ込む前にセレスランを薄く粉衣する。
- △ 発病した苗またはうたがいのある苗は使わないこと
- △ 苗はウ スプルの 800倍液に20分間、根元だけを浸して消毒する。

害 虫

イモゾウムシ

形 態: 成虫は、体長約4mm、全体かつ色の鱗片、鱗毛でおおわれ、腰の部分に白色の横帯がある。卵はだ円形、淡黄白色で約0.4mm。幼虫は体長約6mm、乳白色で頭部は淡かつ色、体には多数の横しわがある。さなぎは、体長約5mm、はじめ乳白色、後淡かつ色に変わる。腹部の末端には2個の棒状突起がある。

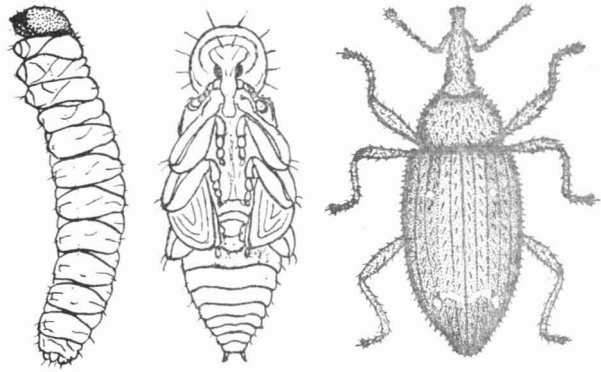
加 害: アリモドキノウムシにとらないサツマイモの大害虫で、サツマイモのほか、ヨウサイ、グンバイヒルガオ、アサガオ、ハマヒルガオなどを加害し、年中みられる。卵は地際茎またはイモに1粒ずつみつけれ、ふ化した幼虫は茎またはイモの中に入り、内部を縦横に加害する。乾燥時に多い。

防 除

- △ 輪作、または塊根の深く入る品種を選ぶ。
- △ 共通寄主を除去する。
- △ 収穫したその残物は、集めて水中に入れるか、1m以上の深い穴を掘って埋める。
- △ アルドリンまたはヘプタクロールを10アールあたり5-6kg、植付け前に土じょうに混入すると効果が大きい。

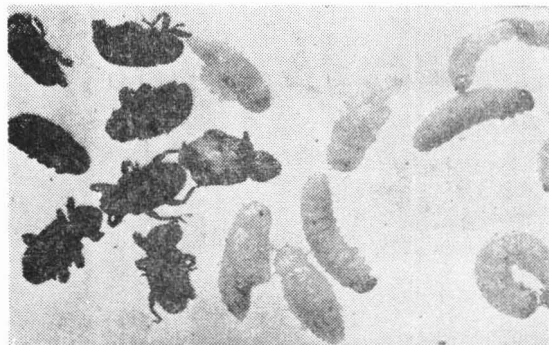
コブノメイガ (ハマキムシ)

形 態: 卵は大きさ0.3mmで乳白色。幼虫は体長14mm、緑色、頭はかつ色、第2、3節の背面に6個の黒点がある。

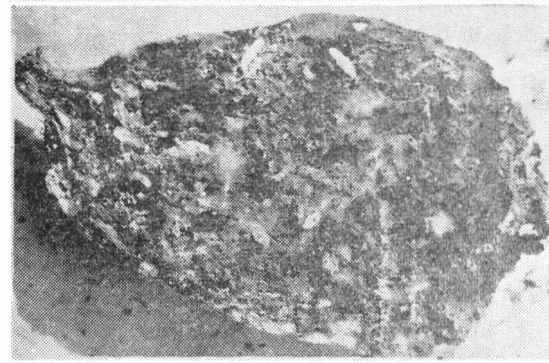


幼 虫 蛹 成 虫

イモゾウムシ



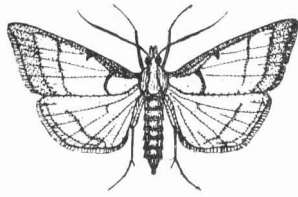
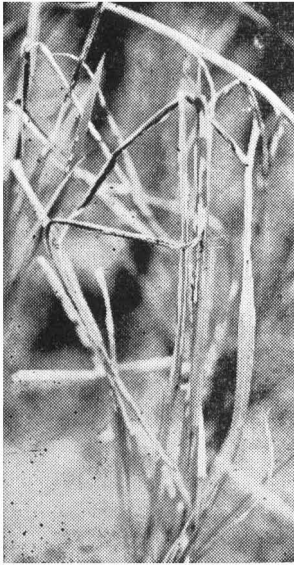
イモゾウムシの写真



イモゾウムシとアリモドキノウムシの加害イモ



畑の附近に放置されたイモゾウムシとアリモドキノウムシの加害イモ



成虫



サナギ



幼虫

コブノメイガの害を受けた稲の葉 コブノメイガ（ハマキムシ）

蛹はうすいかつ色、体長10mm、白いマユの中につつまれている。

成虫は体長9mm、うすい灰黄色、はねの開張18mm

加 害

イネの害虫でイネのほかヒエ、サトウキビ、アワ、麦、ノビエ、チガヤなどのイネ科植物を加害する。

イネの葉に3-4粒ずつ産み下された卵からふ化した幼虫は、イネの葉に白い糸をかけて上手にたてに巻き、その中で葉の表皮を残して葉の肉を食害するので、葉は白いまだらになってすいてみえる。一葉を食害するとさらに新しい葉に移動して加害を続ける。

コブノメイガにたてているタテハマキはその葉のつつの下部を糞で閉じているが、コブノメイガは閉じないので物に驚くと後退して脱け落ちる習性がある。

防 除

- △ 誘蛾灯で誘殺。
- △ BHC水和剤240倍を発生時に2回位散布する。
- △ DDT乳剤 500-1000倍液を上の方法で散布する
- △ マラソン乳剤を1000-4000倍の水にうすめて散布する。

(田 盛 正 雄)